

## 第 1825 回例会報告

令和 6 年 5 月 16 日(木)晴  
【出席報告とニコボックス】



出席報告		ニコニコボックス	
		利用人数	今回の金額
会員数	33 人	11 人	23,000 円
出席対象	32 人	前回累計	523,000 円
出席者数	22 人	累計	546,000 円
出席率	68.7%	目標額	60万円
前回修正出席率	%	達成率	91%

### ◇会長告知◇ 会長 萩田 均 青少年奉仕月間に思う



今日の例会は国際奉仕北原委員長の担当例会です。フィリピンの小学生の音楽教育に取り組み、鍵盤ハーモニカをプレゼントして国際的に青少年育成に貢献している事業の本年度の報告をいただきます。

子供達に奉仕事業を行うことは、継続的に実施していかなければなりません。35周年に発表しています中長期計画にもありますように、次世代につなげることは重要な奉仕です。昨年の事業における子供と、本年の子供は違う子供達です。子供は成長して青年になり、大人になっていきます。あのブナの林の事業も20年前と一緒に整備した子供たちは35歳になっています。諏訪湖清掃と一緒に清掃していた子供達も大きくなり、15周年に水のコンサートに参加した子供達も35歳を超えています。目標を立て奉仕することは大切ですが、数値にとらわれ、終わりを決めてしまうことに違和感があります。続けなくてはいけないことこそ真の教育だと思います。

### ◇幹事報告◇ 幹事 望月 勉

#### 【連絡事項】

- 来週は26日の環境の日諏訪湖清掃に振替休会となります。また、30日も休会です。そして、6月に入り、6月6日は、早朝例会の予定で、次回の通常例会は6月13日です。お間違えの無いよう、お願い致します。尚、このあと2階で理事会がございますので、理事の皆さんは出席をお願い致します。
- 2025-26年度派遣の長期青少年交換留学生の募集がございましたので、募集要項を回覧いたします。お子さんやお孫さんなど、いかがでしょうか。ご希望の方は、事務局へご連絡ください。

【受領文書】ハイライトよねやま、ミンダナオの風



投稿者の敬称 略

- しもすわ混声合唱団の定期演奏会が18日土曜日午後2時より下諏訪総合文化センターで開催します。平和の響きを聞きにおいでください。券は河西さんよりもらください。萩田 均 P.S:今日は、特別にCM料を頂いてあります。
- 北原委員長、お話し楽しみにしています。よろしくお願ひ致します。 宮坂 英貴
- 残り46日。会長、幹事、SAA頑張ってください。御子柴文夫
- 明日から2日間、おばあちゃんを連れて東京へ、お相撲を見に行ってきます。一番前のマス席なので、もしかしたらテレビに映ってしまうかもしれません。素敵なおばあちゃん孝行をします！ 五味 弾
- 五味会員頑張れ！大いに儲けて大いに寄付をしてください。 高山 巖



### ◇例会内容◇

国際奉仕委員会担当例会 北原委員長卓話

「卓話者より」提出された卓話内容原稿文書をそのまま掲載します。



今日は、国際奉仕委員会の担当例会「今期の国際奉仕事業をふりかえる」と題し、報告と来年度へ向けての課題などを発表したいと思います。また、初めて国際奉仕の委員長として、国際奉仕事業に携わってみての感想などもお話ししたいと思います。

最初に今年度の国際奉仕事業計画 について説明します。今年度の国際奉仕委員会では、前年度に続き、国際奉仕活動の過去の事業検証を行い、継続事業も大切にしながら、

アフターコロナで可能となった海外諸国との往来により、どのような奉仕活動ができるのか深く掘り下げていくこと。

また、長年築いてきたセブ島支援のうちの一つ、鍵盤ハーモニカ音楽祭の開催を、来年度の40周年記念事業に結びつける準備の年でもあり、前年度の委員会でご準備をいただいた鍵盤ハーモニカについて、現物整備、現地検証、来年度の周年記念事業としての音楽祭開催の可能性を探ること。

また、鍵盤ハーモニカで繋がったエレメンタリースクールの社会奉仕活動支援の可能性を探る調査研究です。

それから、ミンダナオ子ども図書館の子ども達とつじヶ丘学園の子ども達との交流の実験的実施実現のための\*ミンダナオ子ども図書館へのプロジェクター・スクリーンの寄贈。それと、MCLFの松居友さん、西村奈々子さんを招いて、例会・講演会・つじヶ丘学園先生との懇談会の実施。ほかに、ロータリー財団寄付募集、米山奨学会寄付募集などです。

それでは、ひとつずつ事業を振り返っていききたいと思います。

## 1. Cebu 島小学校支援

この事業の簡単な経緯をおさらいしますと、

クラブ第二十期に「古着の収集・提供」事業から始まり、その折、日本の小学校から提供された5台の鍵盤ハーモニカを現地マクタン小学校に持ち込み、校長先生を始め先生方に教育の一環として試してもらったのが発端でこの事業が始まりました。

マクタン小学校で始まった鍵盤ハーモニカを使った音楽学習では、学校のイベントで国歌の演奏やクリスマス会での演奏、町のイベント、パレードの鼓笛隊で大活躍し、周辺の3小学校から「私達の学校にも..ぜひ」との要請があり、その要請に応じて、鍵盤ハーモニカの収集、整備に拍車がかかりました。

約2300台の鍵盤ハーモニカを収集、セブ・マクタン島の小学校に寄贈しました。

現在、ラプラプ市6校、コルドバ市8校の小学校が音楽学習に取り組んでいます。

この事業ではさらに子ども達の励みになるようにと、五年に一度の「鍵盤ハーモニカを使った音楽会」を企画し、これまでに2回、第1回目は5校、第2回目は14校の参加を得、開催しました。

その後、コロナによって2年間止まっていたマクタン島の小学校との交流を再開すべく、前年度には各校の先生方に集まっていたいただき、西澤さんの力をお借りして現状の聞き取り調査をしていただきました。

各校の保有台数の減少や、故障、吹き口の摩耗等により活動休止が報告され、鍵盤ハーモニカの追加、吹き口の補充が要請されました。

さらに第3回音楽祭の開催を強く要望され、鍵盤ハーモニカの収集、整備、寄贈を事業として決定しました。

前年度の長崎委員長により、収集効率を良くするため、諏訪圏内の小中学校52校をターゲットにして、6市町村教育委員会、諏訪圏内小中学校校長会等で学校での収集・寄贈をお願いし、320台の鍵盤ハーモニカを集め、クラブメンバーと児童養護施設つじヶ丘学園の子供達に手伝っていただき、整備をし、7月初旬に船便にてセブへ送り出しました。

9月には、クラブメンバー7名がセブを訪問、320台の鍵盤ハーモニカと、新たに購入した吹き口を各校の保有台数、必要数に合わせて分け、収納箱に納めて無事に14校に寄贈することができました。

また、Cebu 訪問の目的には寄贈・配布の他に、要望されている音楽祭の開催準備がありました。そのためにまず、

①ラプラプ市長との面談:音楽会開催時の会場提供、市長の参加、ご挨拶の要請をしたところ、早い段階でスケジュールを抑えてくれれば対応していただける旨、快諾していただきました。

②マクタンロータリークラブへの表敬訪問:今後の事業協同の可能性を探ってみました。

諏訪湖ロータリークラブ単独で行われてきた音楽祭を 現地 Mactan Rotary Club に支援していただくことをねらって Mactan Rotary Club の活動調査に訪問しました。

同クラブは、かつて交流のあった、ガダルーペ RC と違い、地域に根ざした活動をしているように感じましたし、鍵盤ハーモニカ事業以外の奉仕活動への協力が期待できると感じました。

③参加14校の校長先生、担当の先生に集まっていたいただき、会食しながら、鍵盤ハーモニカ事業について、それぞれの学校の取り組み、音楽会の開催について楽しく懇談しました。音楽祭開催についてとても前向きであるという印象でした。

マクタン島の小学校との繋がりは、マクタン小学校が起点でした。そして鍵盤ハーモニカ事業も同様です。しかし、最近わかったのですが、14校の中でも一番古くから事業に携わってくれていたマクタン小学校の Nanett 先生、Rubirin 先生がおられました。国外へ移動されたりしてこの二人の先生との繋がりが切れてしまいました。今後、小学校の子ども達を対象にした事業を続けるには、新たに主軸となる先生達との繋がりを作らなければなりません。

キーマンを失った格好ですが、現在、幸いにも西澤さんのスタッフの皆さんが学校と先生とのコンタクトをとれる状況を維持してくれていますので、再度ご協力いただき、40周年記念音楽祭を開催する前に、ラプラプ市、14校の先生方、マクタンロータリークラブ等、現地との入念な打ち合わせを調整していく必要があります。

ぜひとも、来季の国際奉仕委員会では早期の綿密な事前打ち合わせの調整をしていただきたいと思います。

また、この事業ではひとつ、できなかったことがありました。

それは、鍵盤ハーモニカで繋がったエレメンタリースクールの社会奉仕活動支援の可能性を探る調査研究の部分です。

これは、Cebu の小学校の子ども達が、日本のガールスカウトが行っているような社会奉仕活動をすることができないか、その支援の可能性を探る事を目的にしていたのですが、問題提起をはじめ、何もできませんでした。

この調査について、現地小学校の先生達との懇談会の設定が第一段階になるのですが、その準備が出来ませんでしたし、事前の問題意識を投げかける先生も見つからなかったのが理由のひとつです。

ぜひ、この研究を来季でも取り上げていただけたら幸いです。

続いては、

## 2. ミンダナオ子ども図書館財団(MCLF) 支援についてです。

この支援は、2021-2022年度の子どもの宿舎の(井戸掘削・水供給事業)がなされ一段落しました。

また MCLF が少しでも財政的に自立できるような意図で、水田購入事業がなされ、その支援もなされました。まだまだ困難な状況にいる子ども達が収容されています。引き続き水田の購入支援事業や、日本社会での同様の施設である、つつじヶ丘学園の子ども達とミンダナオ子ども図書館の子ども達との繋がりを持たせ、何か明るい道が開けないか通信器機の整備も含めて探ってみました。

まず、

### 1) 支援金: 自由寄付 10万円について

自由寄付は、活動全般にかかる経費と子ども達の生活費に使われています。

寮に収容の80名、家や下宿小屋に住み込んで学校に通う200名の奨学誌支援・医療支援・保育所建設支援などです。

これらは、日本の投資家からの年間総額、約2400万円の寄付金で賄っています。

水田の購入事業は、ファンドで¥3,354,000の寄付が集まり、1haの購入ができました。諏訪湖クラブからは10万円、会員から30万円余が寄付され終了しました。

2) ミンダナオ子ども図書館の子ども達との交流を実施するために \* ミンダナオ子ども図書館へのプロジェクター・スクリーンの寄贈を行いました。

この事業は、MCLF の子どもとつつじヶ丘の子どもとの Zoom を使っての交流しようという意図から来ていて青少年奉仕委員会との共同事業でもあります。

MCLF の子ども達とつつじヶ丘学園の児童達とを比べると、元気が明るさで、かなりの開きがあります。

どうしてだろうかと考えてみますと、・・・子ども達がおかれている環境の違い、同様の養護施設ですが、収容されてくる理由が違うことだと気がつきました。

ミンダナオでは、つつじヶ丘の家庭での虐待(75%)からとは違って、一人親貧困・大家族から・災害による孤児等が収容されています。

加えて MCLF の養育に対する基本的な考え方「家から出て自然の中で、自由に遊ぶこと」「自分たちで考え、物事を決めていく」「日常の炊事、洗濯、掃除などを子ども達がやる」ことで人種、宗教を超え一緒に協働して暮らし、そこで他者への思いやり、同情を身につけていること」等々が違うように思います。

こうして育った子ども達は「自己肯定感」をしっかり持つことができているんだと思います。

この事業は、そんな子ども達と交流して日本側に元気や明るさをもらおうという試みです。

交流は、前年度を含め3回行ってはいますが、参加した子ども達は、好奇心も含め、活発でした。

しかし、残念ながら、その後、つつじヶ丘学園から正式に継続の要望はありません。

正直なところ、事業の成果は残念ながら見えません。このまま終わってしまうと、この事業は何だったのか?ということになってしまうのでしょうか。

いずれにしろ、国際奉仕委員会と青少年奉仕委員会とは一緒になって、このつつじヶ丘学園支援を検討したことがまだないと聞いています。つつじヶ丘学園とロータリークラブとが、課題について話し合う機会もないということですので、この辺が来期以降の課題となるのでは、と思います。

## 3. MCLF の松居友主宰、西村奈々子さんを招いて、例会・講演会・つつじヶ丘学園の先生との懇談会の実施 10月13日、14日にかけて行いました。

講演会当日の萩田会長の挨拶を要約してみますと、私達ロータリーの国際奉仕活動は助け合い、信頼によって、争いが起こらない世界を作る作業だと思っています。

そんな思いを持って、10年ほど前から諏訪湖ロータリークラブではミンダナオ子ども図書館の支援をロータリアン個人、ロータリークラブで続けてきました。

本日は、ミンダナオ子ども図書館の主宰者(しゅさいしや)松居さん、スタッフの西村さんをお迎えして、その活動や活動から得られた知見をお話しいただいて、今後の私達の活動に生かしていきたいとの願いで企画いたしました。」と、講演会の趣旨を説明していただきました。

講演会では13日、会場マリオで「生きる力を育む」と題し、ミンダナオ子ども図書館、主宰者松居友氏、西村奈々子さんを迎え、国際奉仕委員会主催の講演会を開催いたしました。

私達諏訪湖 RC からは16名、ガバナー補佐を含め茅野 RC4名、岡谷エコーRC5名、岡谷 RC3名、下諏訪国際交流協会2名、沖野先生の諏訪湖クラブ2名、一般参加が2名、つつじヶ丘学園から川瀬園長を含め4名、38名の方々にご参加いただきました。

演題は、西村さんが「ミンダナオの子ども達から教えてもらった3つのこと」

松居さんが「生きる力ってなんだろう・ミンダナオの子ども日本の子ども」でお願いしました。

冒頭に、子ども図書館活動を諏訪湖クラブの先頭に立って主導し、支援してくれた溝口先生の逝去に哀悼の意が表され、また、10年来続けてきた諏訪湖 RC の個人、クラブの支援に対し感謝が述べられました。

奈々子さんのお話は、論旨がしっかりしていて「夢・希望・成りたい自分をしっかり持ち続けること等」分かりやすかったと思います。

松居さんのお話は、情緒的、話題があちこちに飛び、聞く側がしっかり想像力を駆使して、本旨をつかまなければならないお話でした。

講演終了後、聴講いただいた諏訪湖クラブの沖野先生が、「松居さんの話法は、明星学園の無着成恭(むちゃくせいきょう)さんにそっくりで、なんかあっちこっちへ飛んでいくんだよ。それから若い奈々子さんの力強い、しっかりした姿勢、そこに繋がっていく若い人たちのネットワークに、明日の日本も期待できると思う。良い講演会だった」と話してくれました。

さらに懇親会の最後に篠原ガバナー補佐より、ロータリーは他クラブの事業にも積極的に参加し、協力してグループの力を強くしていくことが大事だという所見を話され、幕を閉じました。

つつじヶ丘学園との懇談会

翌14日には、10:00~12:00の2時間を予定し、

つつじヶ丘学園の阪本博美さん、矢島慎也さんと松居友さん、西村奈々子さんとの懇談会が、つつじヶ丘学園で行われました。

諏訪湖 RC クラブからは、国際奉仕委員長の私と、長崎副委員長、成山委員、が同席しました。

また、前日の講演会に園長以下スタッフの皆さんを招待したのも、翌日のこの懇談会も、つつじヶ丘の子育ての参考になればと言う思いからです。

両施設の子育てに関わる課題として互いに

1. MCLF の活動 つつじヶ丘のそれぞれの活動
2. 子ども達が入所する理由
3. 子ども達の暮らしぶり
4. 18歳退寮後の子ども達への支援
5. Zoom による交流について 等々 が予定時間を超え、熱心に意見交換されました。

傍聴した感想としては、日本の国の児童養護施設には妥当性を欠いたり、職員数を含め私立の MCLF の活動に比べると制約があったり、マイナス状況から0地点:食べることが出来る、医療が受けられる、教育が受けられるところまで、18歳以降、退寮した後のプラス状況へ押し上げていくことが難しく、職員の皆さんは苦戦しているように感じました。

ここまでがセブ、ミンダナオ支援の事業の報告です。ここでこれらの事業の費用報告を致します。

## ○セブ島支援事業

鍵盤ハーモニカの整備、輸送料に関する費用	小計 252,598円
現地活動費用	小計 268,042円
セブ島支援	合計 520,640円

## ○ミンダナオ支援事業

プロジェクター・スクリーン	
現地購入・配達費用	小計 86,555円
寄付金送金	小計 100,000円
ミンダナオ支援	合計 186,555円

○つつじヶ丘・ミンダナオ講演会費 54,360円  
 まだ確定ではありませんが、会計の河西さんにお聞きしたところ、予算額86万円に対し、決算額 85万9666円 となる見通しです。

その他の事業についてですが、

### 4. ローターリー財団寄付募集

12名の会員から 合計額 190,000円 の寄付を頂きました。

### 5. 米山奨学会寄付募集

12名の会員から 合計額 290,000円 の寄付を頂きました。両方の徴収金額合計は490,000円となりました。ご協力ありがとうございました。

### 6. 米山奨学生を招いての卓話例会

2月1日長野東ロータリークラブのカウンセラーとして倉石智典(くらいし とものり)さんに同行いただき、長野県立大学在学のン イウ ヨン マックスさんが「繋がりと多様性」について卓話をして頂きました。

## 7. LapLap 市 大規模火災への義援金援助

事業計画には無かったのですが、12月に Mactan Rotary Club 事務所に近接した地区で大規模な火災(報道では、600棟が焼け、住民2万人近くが被災した)があり、皆さんからの見舞金寄付で10万円が、Mactan Rotary Club を通して、LapLap 市に贈ることができました。ご協力ありがとうございました。

まだロータリー歴が浅い私が初めて国際奉仕の委員長として、実際に国際奉仕事業に携わってみて感じたのは、特に、ミンダナオとつつじヶ丘を結ぶ支援事業について、残念ながら事業の成果が見えるような活動ができなかったなあ、難しいなあということです。

途中でも話しましたが、国際奉仕委員会と青少年奉仕委員会とで一緒につつじヶ丘学園支援を検討したり、つつじヶ丘学園とロータリークラブとが直接ですね、課題について話し合う機会を設定できたら成果の見える事業になるのかな、と思いました。

**事業報告と将来への展望が含まれておりましたので要約を控えて全文を掲載致しました。 広報委員会**

ニコニコメッセージに記載されている【しもすわ混声合唱団の定期演奏会】が開催され 萩田会長と河西会員の奥様が参加されている 写真を得ましたので掲載致します。



例会終了後 理事会が開催されました。詳細は理事会議事録にて確認下さい。参考に配布された理事会次第を下記に記載致します。

### 1. 議事

#### 1)6月例会について

月日	回	内容	担当委員会	
6月6日	1827	早朝例会	クラブ会報雑誌広報	
6月13日	1828	新入会員の卓話	職業奉仕	理事
6月20日	1829	第39期事業報告	会長・幹事	
6月27日	1830	最終例会(夜間・家族)	クラブ奉仕	

#### 2)ガールスカウト60周年お祝いの件

#### 3)6月1日ローターア外地区大会、

6月9日インターア外地区大会の件

#### 4)諏訪グループ会長幹事会の件

#### 5)諏訪湖創生ビジョン会議出席の件

#### 6)湖浄連会議通知電子メール切替の件

#### 7)持ち回り理事会議題の件

#### 8)次年度クラブ計画書の件

#### 9)2025-2026年派遣長期青少年交換留学生の件

#### 10)その他